

# 開放された舞台でこそ 価値ある俳優が演技する

東京大学名誉教授  
つき つかよしお  
月尾嘉男

## 自国選手が優勝できない舞台

毎年六月から七月、日本では「全英オープン」といわれるテニス大会がロンドン郊外で開催される。開催場所の地名から「ウィンブルドン大会」ともいわれ、一八七七年の初回以来、今年が第一三〇回という由緒ある大会である。当初は国内大会で、当然、優勝は自国選手であったが、世界に開放されて以後、一九三六年を最後に自国選手は優勝出来ず、最近、マリー選手が二度優勝したもの

の、八〇年近く外国選手が栄誉と賞金を獲得してきた。

このような状態は「ウィンブルドン現象」と名付けられている。舞台は用意するが、活躍するのは自国以外の人間や組織という現象である。だれもが連想するのは日本の大相撲とゴルフ大会である。現在、大相撲の幕内力士四二名のうち三分の一強の一五名が外国出身であるし、横綱は三名ともモンゴル出身である。最近の国内のゴルフ大会では、男女いずれも優勝や上位は韓国や台湾など



の選手の独占状態である。

これを放任するか規制するかは重要な課題である。大相撲では部屋あたり外国力士を一名に制限し、プロ野球も所属選手の人数は制限しない

ものの、試合に出場できるのは四名までとしている。サッカーのJリーグもチームで三名に制限している。これは自国選手を育成する意味はあるものの、アメリカのプロ野球やヨーロッパ各国のサッカーの試合をテレビジョンが中継する時代には、日本のスポーツが魅力ないものになっってしまう。

## 舞台を一流にする開放政策

規制しない場合の効果はウィンブルドン大会が証明している。自国の選手が上位にならないことは残念にしても、世界の一流選手が出場するようになった結果、かつての地方大会が世界四大会にまで躍進している。これはスポーツ以外にも該当する。サッチャー首相が金融市場への外資の参入を規制緩和した結果、外国の強大な企業が参入し、いくつかの国内銀行が買収されたものの、ロンドンの金融センターは世界の中心に躍進した。

唐突であるが、毎年発表される土地単価で銀座は長年首位を維持して

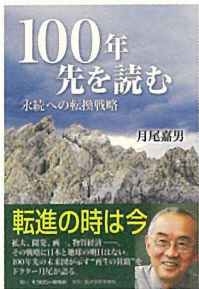
いる。これは国籍に関係なく、いつも時代の先端をいち早く導入してきた結果である。戦前は最初の馬車鉄道、最初のビヤホール、最初の自動（公衆）電話、戦後も最初のマクドナルド、最初のアップルストア、最初のチャンネルブティックなどが立地してきた。現在では世界の有名ブランドショップが銀座に集中し、外国人観光客も集中している。自国に固執しなかった成果である。

## 開放された舞台が発展させる社会

カーター大統領の特別補佐官であったZ・ブレジンスキーは、アメリカが世界最強の国家となった原因は「軍事、経済、技術で最強であるだけではなく、粗野ではあるが世界の若者を魅了する文化を誕生させたこと」と記述している。世界の一流の野球選手や映画俳優がアメリカを目指すだけではなく、世界の優秀な若者がアメリカの大学に入学し、卒業してアメリカの産業を発展させている実状がブレジンスキーの見解を証明している。

さらにクリントン大統領の国防次官補であったJ・ナイは、二一世紀の国家や企業などの組織の威力は武力や財力ではなく、魅力が最大の効果を発揮すると説明している。魅力とはアトラクティブネス、すなわち国家や企業が必要とする人間、物資、資金、情報を誘引する能力である。企業の場合であれば、優秀な人材が入社したい企業、必要な資材や資金が調達できる企業、重要な情報を手に入れる企業が発展するということになる。

日本では島国という地理条件も影響する内向き意識が醸成され、社会や企業が世界の舞台となることを阻害してきた。それは独自の文化の形成には役立つってきたものの、限定された人材、資金、情報でしか競争できない風土の温床ともなってきた。これからの人口減少、経済縮小の時代に発展していくためには、ウィンブルドン大会が世界最高の選手の目指す四大会になったことを参考に、社会も企業も開放された舞台となる必要がある。



絶賛発売中!!  
ご注文は添付のハガキで